



だより



R6.9.10 Vol.18

運動会練習も始まりました！

始業式の翌日から、運動会練習も始まりました！暑い中の練習なので、熱中症等に気をつけながら練習をしています。

子供たちの様子を見てみると、「暑いけど頑張ろう！」という気持ちが伝わってきます。今年の運動会のスローガンは「チーム真穴 ～一生懸命パリより熱く～」に決まりました。そのスローガンを意識したわけではないのですが、始業式に私が子供にした話も「どうせやるなら一生懸命！」

一生懸命であることの大切さを運動会の練習、そして本番を通して子供たちに感じてほしいと思っています。

一生懸命であることが、子供の未来を切り開いてくれると私は信じています。



真穴！万歳！

朝、ウォーキングがてら、通学路の点検や登校の見回りに。『今日も穏やか よしがんぼろ！』なんて海に癒されながら、歩いていると路線バスの中に八代中へ通う子供たち。何度か顔を合わせた程度ですが、会釈してくれる子供もいます。

民家が近くなってくると、どこからともなく朝食のいい匂いが…。地域の方とも軽く挨拶をし、子供たちを待っていると「あっ何か朝ごはんのいい匂いがする。」と雑談しながら、子供たちがやってきます。

出張等で朝、松山方面を走ることがあります。出勤途中の車が多数往来する大通りの中を登校する子供たち。周りはいわゆるコンクリートジャングルです。

たかが登下校のわずかな時間かもしれませんが、豊かな自然と温かい地域の中で育つ真穴っ子たち。大切にしていきたい環境です。

四方山話真穴 ver. 其の十八(支えてもらっているという実感)

前回の便りに書きましたが、8月下旬、愛南町マラニックという大会に参加してきました。その時に感じたことを少し…。結果を見ると、四人に一人がリタイヤするという過酷なレースでした。超ビギナーの私が無事にゴールできたのは、まずは誘ってくれた友人のおかげです。「焦らないで！ここは歩きますよ！」「ここからはしばらく走りますよ！」「ちょっとここで鎮痛剤飲んどきましょう。このサプリ、今飲んでください。」そんなペースメイクやケアをしてもらいました。一人で参加していたら絶対ゴールできてなかったでしょう。そしてボランティアスタッフさんたちの給水(休憩)所での温かい対応。「頑張ってください！」「氷！持ってきたで!!はよ身体冷やしてや！」「もうあとちょっとですよ。」巡回しているスタッフの的確なアドバイス。「まだ急がなくて大丈夫です！時間はたっぷりありますから、楽しんでください！」参加している他のランナーさんからの言葉がけ。「半分は過ぎましたよ！そのペースで完走できますよ！この坂は体力削られるので歩いていきましょう。」今年はパリ五輪があり、たくさんの感動がありました。五輪選手の皆さんが「おかげで…支えてもらったから…」そう言っていた言葉が、実感として自分の中でもこみ上げたレースでした。(あっ…何かすみません。オリンピックと同列な感じで…笑)

余談ですが、42キロ地点(ゴールまであと11キロ)の給水所で手先の痺れ、立ち眩みがクライマックスになり、「ここまでか？」との思いが頭をよぎりました。給水していると、同年代くらいの女性ランナーの方が隣に座っていました。「フルマラソンの距離までは来ましたね！」そう話しかけると「ここでリタイヤしようかと思っています、もう限界な気がします。」そう返ってきました。「あと11キロですよ。ここまで来たんです！行けるとここまで行きましょうよ！」おそらくそれは自分への鼓舞でしたが、そう言ってそこを後にしました。ゴール後、周りを見ると、その方もゴールされていました。「ゴールしたんですね！おめでとございます！」そう声を掛けると「声を掛けてもらえてなかったらあそこでやめていたと思います。おかげでがんばれました。」そんな言葉が返ってきました。支えてもらってばかりだったけど、ちょっとだけ役に立てたのかも…。しんどかったけど、とっても良い経験ができました。